

令和5年7月10日の大雨による災害発生箇所の現地調査 ^{A-②}

(佐賀県唐津市浜玉町平原今坂)

令和5年7月10日の大雨により、佐賀県唐津市浜玉町平原今坂において土石流が発生し、全壊2戸、死者3名の被害が発生。

現地状況の詳細な把握のため、TEC-Doctorを派遣し、現地調査及び救助活動時の安全対策への助言等を頂いた。

出席者：九州大学大学院 水野准教授、河川部 河川計画課

● TEC-Doctorによる現地調査(令和5年7月10日)



【今回の土砂災害について】

- マサ土と思われる細かい土砂を主としたもの及び流木が20本くらい流出している。
- 堆積地にある岩(1~2m)は、元々その場に存在していたものと思われる。
- 崩壊地を見た訳ではなく正確ではないが、表層崩壊に起因した土石流と思われる。

【救助活動時の安全対策への助言】

- 今後降雨が生じないようであれば、土石流は起きないと考えられる。
- 救助活動中は、降雨レーダーによる雨域の監視と土砂移動の現象が見やすい安全な場所で見張り員をたて、異常が認められた場合には、直ちに中止するなどの措置をとる。(ただし、土石流センサーをつける場合は不要と思われる)
- 現場内の土石の撤去については、マサ土が1~2m程度堆積しているという状況から、雨水を含んでいる場合は非常に崩れやすい性質があることから、重機による作業や転石付近の作業時には注意が必要である。